



手掌紋の親子鑑定における応用（第一報）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浅野, 稔, 南方, かよ子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/1791

235. 手掌紋の親子鑑定における応用 (第一報)

浅野 稔, 南方かよ子, (浜松医大)

手掌紋は親子鑑定において主線の欠如, 主線の走向の一致, 小指球紋, 拇指球紋などの特徴が親子共通して観察されることがあり, それらは親子関係の判断に役立つものと思われる。そこで手掌紋の親子鑑定への応用を試み, 今回はその始めとして主線D, C, B, Aの走向の頻度, 相互の関連性, 腕三叉線, 指間紋について統計的検討を行なった。資料は親子関係のない160名の320手を用いた。

イ) 手式について (5'', 5' はまとめて 5 とした。主線の欠如, 中断は 0 であらわした。)

図1にみられるようにD線は主として7, 9, 11で終る。C線は主として7, 5, 9で終り0の頻度も高い。B線は主として7, 5で終り, A線は殆どが3で終わる。以上, 変異の多さはC, D, B, Aの順であった。次に各線間の関連性をみるために表1にD, C線間の, 表2にC, B線間の関係をみてみた。これらの表からわかるようにC線はD線によって, B線はC線によってほぼ定められることがわかる。

ロ) 腕三叉線について

t, t', t'', t' がみられそれらの割合は 0.853, 0.158, 0.006, 0.006 であった。

ハ) 指間紋について

図2にみられるように, 第2指間紋は殆どすべての人に存在せず, 第3ないし第4指間紋は90%以上の人に存在し, 小指球紋, 拇指球紋の割合はそれぞれ 0.175, 0.081 であった。小指, 拇指ともに紋が観察されたのは320手中1手のみであった。親子鑑定において, 親子共に小指球紋がみられるのみならず親に小指球紋, 子には拇指球紋がみられたり又その逆のケースがみられたりもした。

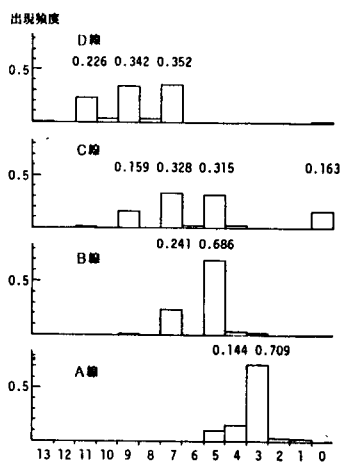


図1. 主線の終了区域

表1. D, C線間の関係

		C線					
		11	9	7	6	5	0
D線	13	1					
	11	3	38	13			18.5
	10		2.5	5			2.5
	9		7	73.5	1		28
	8			1.5	6	2	
	7		3.5	10		96	3
	0			2		3	

表2. C, B線間の関係

		B線						
		9	7	6	5	4	3	0
C線	11	4						
	9		42		9			
	7		17.5	1	83.5	2		1
	6				7			
	5				87	8	6	
	0	1	17.5	0.5	33			

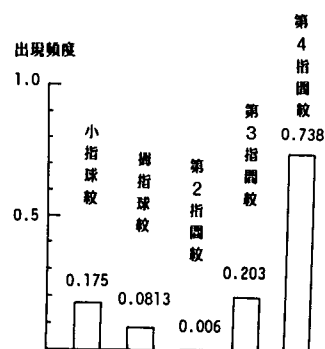


図2. 指間紋の出現部位